

写真：建設当時の追浜高校校舎

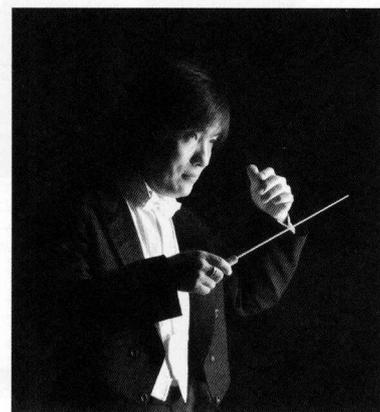
同窓生 活躍人！

記念すべき第一回目の「同窓生活躍人」には、世界的に有名な指揮者の飯森 範親さんに飾っていただきます。まずは、プロフィールをご紹介します。

追浜高等学校 17 期生。

桐朋学園大学指揮科で小澤征爾氏、ジャン・フルネ氏等に師事。卒業後、ベルリン、ミュンヘンに留学。バイエルン州立歌劇場で W・サヴァリッシュ氏に師事。2001 年には、ドイツ・ヴェルテンベルクフィルハーモニー管弦楽団音楽総監督に就任し、2005 年 2 月には来日公演を行った。同オーケストラとは日本人と国外のオーケストラとして世界初の CD となるベートーベン交響曲全集を完成、大いに話題になっている。平成 18 年度文部科学大臣賞新人賞、中島健蔵音楽賞を受賞。現在、東京交響楽団正指揮者、山形交響楽団音楽監督、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ドイツ・ヴェルテンベルクフィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。

飯森 範親氏



写真：五十嵐秀幸氏撮影

小学生の頃から指揮者になりたいと心に決めていた私には、音楽大学の付属高校という選択肢をあえてとらず、県立の普通高校、しかも進学校である追浜高校を選んだ理由がありました。指揮者という職業のことで一般的によく尋ねられる質問です。「どうしたらなれるのですか？」「なる為には何か試験があるのですか？」などなど…

一般的に未知の世界の仕事と思われるような感じです。しかしどんな職業であれ、まずは人として一般的な常識と幅広い教養、そして基礎的な学問をどの程度身につけているかが問われます。そうでなければ一人前としては扱って欲されないでしょう。「やはり高校までは、教養と学問を身につけよう。その為には、こ

の学校で…」そんな信念から追浜高校を選んだのです。

指揮者とは、オーケストラという何十人ものひと癖もふた癖もある音楽家集団の前に立って指揮をし、曲を仕上げ演奏会を成功させること、これが主な仕事です。また、一つのオーケストラを任せられる音楽監督ともなれば、優れた指揮技術や音楽性を持ち合わせなければならぬのは勿論のこと、野球の監督や企業のトップと同様、個人の素質を見抜き個々を適材適所へ配属させ、結果的に組織力をアップさせてしまう、よく言われる『何とかマジック』の様なものも必要とされるでしょう。時には、経営能力や政治的手腕、そして一聴衆を熱狂的なファンへと変貌させてしまう様なカリスマ性やスター性も指導者の魅力として大事な要素の一つと言えるかも知れません。勿論、高校時代に得た常識や教養、学問などではこのような能力が身につくはずはありませんし、私自身に全てが備わっているのかどうか、いまだによくわかりませんが、はなはだ疑問ではあります…(苦笑)

でも、一つ言えることは、多くの土台となることは学んでいたのではないかとことです。基礎となる土台が

良くないと家は建ちませんからね：

私が目指したのは、世界的な指揮者であり師匠でもある小澤征爾先生を輩出した桐朋学園大学指揮科。高校時代、音楽の専門的なレッスンと学業を両立することは容易ではありませんでした。四時半に帰宅した後は、まず十時すぎまでピアノの練習。そして遅い食事、入浴後は作曲法の課題に少なくとも二時間を要し、就寝前に指揮法やスコアリーディング。睡眠時間はせいぜい四時間：起床後は、ソルフェージュの練習後に数学と英語は必ず予習：食事をして七時半過ぎに家を出る：当然この基本的なスケジュールの中に、指揮法、ピアノ、作曲法等の専門的なレッスンが入り、また学業の方では定期試験が：こんなペースが三年間続いた訳です。

指揮科の学生は、一般的に桐朋学園大学付属音楽高校から来る人がほとんどで、全学年合わせても一人いるかないかの狭き門：一般の高校から入るなんて夢のまた夢と思っていたのですが、努力の甲斐あり入学、しかも現役合格というおまけ付で：

ただ、今思うと、ハードルの高い大学を目指していたことで、いわゆる『帰宅部』だった私は、かなり自分勝手な

高校生活を送っていたと思うんです。なぜなら、東京へレッスンに行くために頻繁に授業を抜け出していたんですから：（笑）

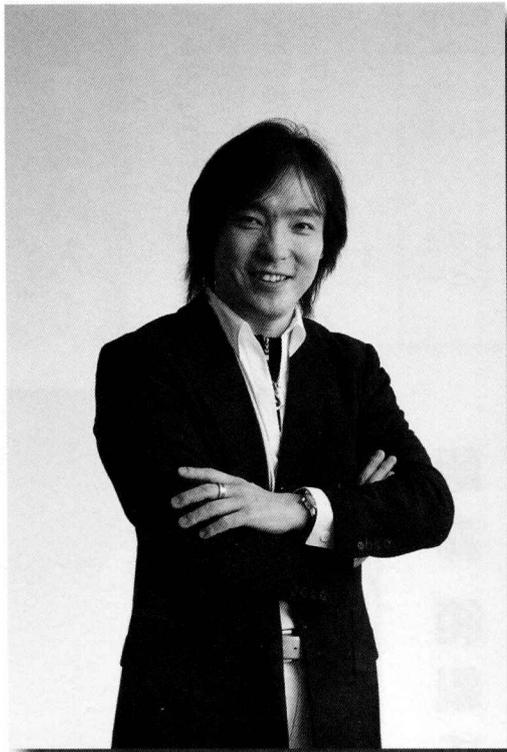
それでも、見て見ぬ振りをして下さっていた当時の先生方の懐の深さには、頭が上がりませんし、当時の音楽科の小野里先生には心から感謝致しております。ただ、ここでお断りしておきますが、学業はかなり頑張ったつもりですし、この紙面で授業のサボタージュを奨励しているわけでもありませんので、念のため：

こんな毎日を過ごした高校時代でしたから、同窓生の皆と楽しい時間を共有し高校生活をエンジョイしたという記憶があまりないのは残念です。当時

はきつと私のことを『難しくてよく分からない人』と思っていた人も大勢いたのではないのでしょうか：（笑）

ここ数年、多くの同窓生の皆さんがコンサートやテレビで私の演奏をお聴き頂いている様なのです。特に最近、楽屋を訪ねてくれる（勇気ある！）同窓生が増えています。本当に多くの方々に再会できて心から嬉しいとは思っているのですが、驚くことが一つ：

『みんな、歳とったな』（笑）
サプリメントから始まった健康管理を基本に、ここ数年プロのコーチのもとで全身の筋肉を鍛えています。
ハーフは楽に走れるのでホノルマ



ラソン出場も夢の一つですし、今度は東京ドームでアマチュア野球の試合に出場します。また、ボウリングのレベルは百七十台を超えそうですし、体脂肪率も一桁台に突入しそうな勢いなんです。

『私の高校時代からは想像できないでしょ？』

どんな職業に就いても四十も半ばを過ぎたらまず健康。この歳になると改めて体が資本であることに気付かされます。顔の色つやが良くないのは不健康な証拠ですし、そんな顔で指揮したらきつと音にも悪影響がありますね。オーケストラってマスクをして練習すると本当に音が風邪をひいたような、がさついた音色になるんですよ（笑）

『これからの日本をリードする同世代の皆さん！
なにことも健康第一！
頑張っていきましょう！』

追高OB初校長

小西校長(6期)の インタビュー



- 司会
うしお会副会長 永田さん(7期)
- オブザーバー
うしお会会長 進藤さん(2期)
- インタビュアー43期
(男性) 山本さん、山口さん
(女性) 鈴木さん、福島さん

(山本) 4月からこちらに赴任されましたが、どちらの学校から来られたのですか？

(校長) 無くなってしまいました。が、岩戸高校からで、その前は、氷取沢高校にいました。

(山本) 岩戸高校と追高高校の違いはありますか？

(校長) 部活の加入率が違いますね。岩戸は、3割か4割ぐらいだけど、追高は8割を超えて活発に行われている。

(福島) 赴任して二ヶ月が経って追高生の様子はどうですか？

(校長) 追高生は部活を一生懸命やっているし、授業の様子を見てるとまじめに一生懸命やっております。携帯をいじったり、寝ている生徒はいないよ。

(43期一同) エー！

もしかして校長先生が来るから大人しくしていたのでは。

(校長) それもあるかもなー

(山口) 去年見に来ていたら、今と違う印象になっていたと思います。相当ひどかったのでは(笑)

(校長) 最初は、ちよつと元気がないと思っただけで、こちらから声をかけると段々、生徒から挨拶してくれるようになった。普通の授業中は、すごく真面目で大人しいイメージがあるけ

ど、部活や友達どうしでは、結構元気に、活発にやっていますよ。いわゆる高校らしい学校かなという印象を受けています。

でも、我々の時のほうが元気があつたね。

(鈴木) 期待する追高生像はどのようなのですか？

(校長) 大きく言うと、二十一世紀の日本をリードしていく人材ですかね。どんなセクションでも、自分から進んでチャレンジし、リーダーとして活躍してもらいたい。

実際に我々の先輩がいろいろなところで働いていて、お会いする方は皆さん、課長や部長になられている。また、指揮者の飯森さんもいらつしやるでしょ。

(オブ) 今回の会報の記事に載ります。(校長) 世界的に素晴らしい名声を得るようになってもらうのが、一番良いのだけど、そうじゃなくてもリーダーを育成したいなと思います。

そのためには、高校時代に思考力・判断力・表現力といった力を身につけてもらいたいと思っています。

(山口) 校長先生は、追高高校出身ですか、初の卒業生校長になった気持ちはどうですか？

(校長) 普段は全然意識しません。一

県立高校の校長として仕事をしています。岩戸高校が無くなり転任することはわかっていましたが、いつかは追高高校に行きたいと思っていただけ、まさか今年来るとは思っていなかったもので、多少びっくりしました。でも、正直嬉しかったですよ。

普段は本当に意識しないのですが、こういう時(今回のインタビュー)とかOBの関係者の方々が訪ねてくれた時とかに意識して、多少プレッシャーもありますね。下手な学校にはできないなど。(笑)



(山口) 高校が昔と違って残念なところはありますか。

(校長) 学校がやはり汚くなった。我々の時は6期だからまだ校舎が新しかったのですよ。もう少しで五十年になるけど、こんなになってしまうのかと感しました。夜に生徒会館とか部室棟を見ると幽霊が出てくるのではと思ってしまう。我々のころは、生徒会館で寝泊りしていてすごく綺麗でした。

(校長) グラウンドが狭くなったり、校舎が汚くなったのは、とても残念なのだけど、ここ(校長室)や廊下、教室など床が木でしょ。我々のときと変わっていないのが、すごく嬉しい。今、床が木の学校は少ない。高校生の時にはあまり意識をしなかったけど掃除のときの雑巾がけ印象深かったね。

(山本) ちなみに、校長先生が高校生のときには、どんな生徒だったのですか？

(校長) そこに来る？(笑)

あんまり言いたくないけど・・・

(司会) そこが一番聞きたいですね。(笑)

(山本) 校長先生なので、すごいしっかりとした学生生活を送っていたのかなあと。

(校長) それを言われると同級生に顔を合わせられないよ。(笑) お前で大

丈夫かと言われる、そういう高校生でした。思い出すとサッカーばかりやっていましたね。サッカーは三年の十一月までやっていました。強くて、県大会でベスト4まで行った影響で十一月までやっていて、そこから受験勉強を始めたので、あまり勉強は・・・まあ、やんちゃでした。

余談なのですが、息子もサッカー部で、部室に当時のスコアブックがあって、それを家に持ってきてくれたときには、本当に記憶が甦りました。

スコアブックはマネージャーがつけてくれていたのだけど、そこには、「島田君(当時のキャプテン)と小西君が試合で勝って泣いていた」とかが書いてあるのですよ。

そのときには、自分の息子が同じ高校に入って、同じサッカー部に入って本当に嬉しかったですね。

(鈴木) これから追浜高校をどんな学校にしたいですか？

(校長) やっぱり伝統と歴史があるもので、そういうものも大事にしながらスナップアップしていきたい。まったく学校を変えるのではなくて、四十六年の歴史と伝統(文武両道・独立自主)を大事にしつつ、今求められている学校づくり、生徒のニーズに答えられる学校にしていきたい。生徒には、明るく、元気よく学校生活を送ってもらいたいと思います。

く、元気よく学校生活を送ってもらいたいと思います。

三年生を見ていると何だか余裕がないように感じる。受験などは、自分でやるものだと思っているので、生徒には明るく三年間を過ごして欲しい。

(司会) 校長先生から生徒に一言でメッセージをいただけますか。

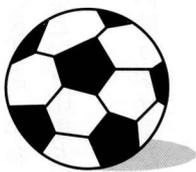
(校長) チャレンジですかね。変にこじんまりしないでチャレンジしてもらいたいです。

(司会) 卒業生(OB)に向けても一言いただけますか。

(校長) ひとつは、追浜高校を応援してもらいたいですね。直近では、五十年もあるし、節目のなかでOBにも学校を支援して欲しいです。

それから、今の持ち場で活躍して欲しいですね。卒業生が活躍しているのを聞くとすごく嬉しいですから。

追浜の卒業生という自信や誇りを持って頑張ってください。人のことをあまり言えませんが…



(司会) 最後に校長先生から何かありますか。

(校長) 縁あって母校の校長になりましたので、使命感をもってやります。是非、いい学校にしたいなと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。

(一回) 拍手！

(一回) 本日は、お忙しいなかありがとうございました。



「創立期と39期… 世代を越えた 座談会」

●司会

・永田さん(7期)、二宮さん(7期)

●オブザーバー

・進藤会長(2期)

●創立期の世代

・川名さん(1期) 公務員

市役所を今年定年退職し再任用職員として市民相談室にいる。高校時代から四十過ぎまでサッカーをやっていた。思い出は高校2年の時に東京オリピックが開催されて、試合を見に行ったこと。

・里吉さん(1期) 教育出版

現在まだ定年にならずに旺文社の財団法人に在籍している。高校では、野球部マネージャーをしていた。新聞部の編集長もしていた。

・寺田さん(1期) 教員

高校時代は帰宅部で寄与してないため、今日は参加した。帰宅部連中で論争することが盛んだった。三十八年間の教職を経て、昨年長沢中の校長で退職し、私も再任用として野比中で新

人教員の研修係として働いている。

・遠藤さん(4期) 自営業

夏島小、追浜中、追浜高校と地元で過ごし、実家の建具屋を継いでいる。高校時代は帰宅部で、学校は厳しかった印象がある。当時は、ボーリングに行っただけで停学になった。父親は七十過ぎまで仕事をしていたので、体の続く限りやっていきたい。

●新社会人の世代

・秋元さん(39期)

高校時代は陸上部。現在は、市役所の市民税課で税の賦課をしている。職場に追浜高校の先輩が多いので、高校という存在を再認識した。

・酒井さん(39期)

部活動は吹奏楽部(クラリネット)、受験のため高2の3月までしか在籍しなかったため、OG会に参加できないのが残念。仕事は、生命保険会社のアフラックで内勤をしている。上司がOBなので、安心感がある。

・室伏さん(39期)

仕事は、みなとみらいにある東京海上日動火災保険で働いている。高校時代は、生徒会に所属しており、地味に裏方で仕事をしていた。一番の思い出は、2年生の時の文化祭が四十周年ということもあり盛り上げたこと。高校の友達には元気をもらえ、追浜で良

かったなど思っている。

・永田さん(39期)

部活は陸上部で秋元君と一緒にだった。高校時代は、部活が終わってから朝礼台の上で語ったり、行事の合間にコンビニに行ったりと、友達と過ごし時間が想い出に残っている。会計ソフトを作っている会社に勤めている。



(司会) 今年は1期生で定年を迎えた方もいれば、39期生のように社会に羽ばたいた方もいるので、世代を越えて話し合いをしていくことで、会報を読んだ方が何かを感じてもらえれば良いなと思います。

主なテーマとしては、「二十代ってどんな時期でしたか?」ということをし

創立期の先輩方に聞いてみたいです。二十代を過ごすにあたり、不安に思っていることなどの解決方法が見つかったりするのではないのでしょうか。

では、1期生の寺田さんからお願います。

(寺田) 十代の後半で特に高校時代は多感であります。友達と色んな話をした事や競争心があつてお互いを傷つけた事などを経て、二十代になるとそのことが非常に糧になるし、実社会に出たときに親友は貴重である。言い尽くされた言葉ですが、高校時代や大学時代の友は一生ものだなあと四十年経って改めて実感しています。親友はたくさん居たほうがいいですね。

(司会) 今日の若い方々は就職して二ヶ月たらずですが、会社に入りたてのころの我々はどうか。

(里吉) マスコミ志望だったのが、良いところは落ちてしまい、最初に内定をもらった旺文社に、そのまま入りました。ちょうど、共通一次試験が始まるところで、旺文社模試が業界を独占していた時期でした。

それこそ、今入って来る新入社員はとつても優秀で、世渡り上手と言っか、うちの会社では、すぐに独り立ちさせちゃいます。

でも少なくとも三年は勤めて欲しいですね。辛くても何か得るものがあるはずだから。

(川名) 当時は景気そのものが良かった気がします。大学四年までサッカーをやっていたため、親が心配して市役所に願書を出したことがきっかけで就職しました。今の若い人達が目的意識を持って就職しているのを偉いと思います。

目的を持たないまま就職してしまいました。就職して心がけたのは、今できることを一生懸命やろうということです。仕事としてやる以上、やらなければならぬので、新人だから出来ないというのは駄目で、できることを積み重ねていき、それが自分の経験値になっていくと思います。

今の若い人達はすごく頭がいいし、目標を持っているのはいいことです。世の中は希望通りにならないことが多いので、それに対する対応力があり無いように感じます。場面に合わせて自分ができることをしっかりとやっていこうという考え方を持ったらいいいのではないのでしょうか。

(遠藤) 仕事の面で話をすると、飯森さんみたいに高校を自主早退して自分の目標に向かって努力し続けるのは難しいので、養老孟司先生の本に書いて

ありました。(誰かが埋めなくてはいけない)自分の目の前の穴を埋めていくという普通の事をやっていくことが良いのではないかと思います。

十代、二十代のころ五十過ぎのおじさん達は、酸いも甘いも分かっている。凄いだらうなと思っていましたが、自分がその歳になってみたら、多少経験は増えたかも知れませんが、根本的には変わっていないですね。

無理をしないで、軽い気持ちで人生を過ごしてください(笑)

(司会) 遠藤さんからみてサラリーマンはどう見えますか?

(遠藤) 羨ましいという面もあるし、大変だなという面もあります。こちらは、自分の責任で全てできるので、極端な話お客さんを選ぶこともできません。その分大変なところもあります。どの職業も良い所もあり悪いところもありではないですか。

(司会) 若い方にお話を伺いたいと思います。率直に悩んでいることなどありましたらお聞かせください。

(秋元) 五月病にかかる暇がないくらい五月は忙しかったです。慣れるのに一杯です。職場に入ってお客さんに怒鳴られることがあります。戸惑いましたが、中には「親切にありがとう」と言ってくれる方もあるので、いろいろな人

がいるなど感じた二ヶ月でした。

学生までは同じ年代の人たちと過ごしていましたが、同期は前職がある方がほとんどで、いろいろな年代の方がいたりするので、同い年は数人しかいないです。ただ幅広い年代の方とは、話をするだけで良い経験になります。

(司会) 団塊の世代の方々が就職したころには、同じ年がたくさんいたので、今の人達と違うところですね。

それでは、酒井さんいかがでしょうか。

(酒井) 四月中は、缶詰で研修を受け資格を取り学生の頃より勉強をしています。仕事の面で先輩に何回も聞いたので、心苦しい毎日を送っています。

同期は三百人いますが、配属先には二人なので、孤独を感じることもあり、平日は早く帰って次の日の仕事に備えようと思ってしまう。

お客様から電話で厳しいことを言われたりするのが、高校二年のときと飯森さんに指揮を振っていただいたときの指導が厳しかったので、その時の経験が活かされています。(一同笑)

(会長) 社会に出て怒られないということは無いので、学生時代に怒られていたほうがいいですよ。

(酒井) 飯森先生には、「どんなことを

やるときも、心の奥底から一生懸命やろうと自分で努力しないと意味がない」と毎日言われていて、それがとても心に残っています。

(司会) 孤独というキーワードがありました。それは、室伏さんお願いします。

(室伏) 私も一ヶ月ほど研修しました。今も週に二日朝八時出勤で、勉強会をしており。勉強の一年だと思っています。取らなくてはならない資格も多くて、大学のときは何で勉強していなかったのだろうと思います。

配属先では、昨年来話題になっている不払い問題が尾を引いていて、先輩方はその解決に全力を注いでいるところだったので、少し居づらい面もあり五月を終えました。

忙しい支社で、すぐにでも仕事をやって欲しいという雰囲気があり、電話にでしたが、私もお客様に怒鳴られて、電話コンプレックスにかかっているところ。学生生活で怒られる機会が無かったので、精神的に不安なところがあります。先輩がやさしいので、ひとつひとつを覚えて行きたいと思っています。

(司会) みなさん研修がすごいですね。それでは、永田さんお願いします。

(永田) 私も日々研修中で、課題を与

えられて、それをコンピュータ上で
 することをしています。

そもそも何か作りたいと思っ
 ったのは、学生時代にインターン
 シップで映画製作の方々とお仕事を
 させてもらったのがきっかけです。
 この仕事は、「博打」みたいなもので、
 お金を掛けてもうまくできるとは限ら
 ないし、技術だけで人との繋がりがう
 まくいかないと失敗だったりします。
 そういう方々と仕事をしたことで、これ
 はできるというものを持ちたいと思っ
 ようになりました。

そのことができるのであれば、前向きに
 人生を送れるのではないかと思います。
 プログラミングの世界を志したのですが、うま
 いかないとすぐ落ち込みます。先ほ
 ど、できることを積み重ねていくこと
 が大事ということをお聞きしたので、
 頑張っていこうと思います。

同期が七人、自分だけ進捗が遅れて
 いると、情けなくなっています。また
 落ちこんでしまいます。

（弱者）弱弱しくて、お父さんごめんさい。

（司会者）が父のため一同笑

（司会）お話を聞いていると皆さん謙
 虚ですね。ただ、昔は新人に対してこ
 こまで厳しくなかったような気がしま
 す。何か先輩方から対処法をお聞かせ
 願いますか。

（遠藤）最近悪い意味で使われること
 が多いですが、「いい加減」といこと
 大切にしたいですね。

（寺田）最近ではモンスターペアレンツ
 で有名ですが、まじめすぎる人はポ
 キッと折れてしまいますね。

若い先生には、「ぶれない、こびない、
 くじけない」を心がけるように言いま
 した。命まではとられないから抱え込
 まないことですね。

退職間際で学んだことは、世の中は
 分業化されているので、自分が無能力
 と考えて、本当のプロの意見を聞いて
 自分の仕事に活かすことです。

みなさんは、まだ若いので、上の人
 がいくらでも、尻拭いをしてくれます、
 心配しないで頑張ってください。

（司会）それでは、若い方から諸先輩
 方に聞きたいことがありますか。

（酒井）新人に最低限求めることを教
 えて欲しいです。

（里吉）まじめに勉強しているかどう
 かを上司は見ているのでは。

（室伏）へこんだときの対処方法を教
 えてください。

（寺田）先輩に聞くことですね。先輩
 は聞かれて嬉しくないはずはないの
 で。

（川名）考えずに頭をからっぽにする
 ことですね。家に持ち込まないように

心掛けました。

ため込むと大きくなってしまおうの
 で、小さいうちに発散したほうがいい
 と思います。

（司会）最後に後輩に対してメッセージ
 をお願いします。

（遠藤）大変なことが多いとおもいま
 すが、何とかありますから（笑）

（寺田）高校に進学するときには、当
 時行きたくても行けない人がいたとい
 う気持ちで三年間を過ごしました。ま
 た、就職するときも中途だったので、
 そのハンデをバネにして頑張りました。

そして、追浜で学んだことは、定時
 制との交流で、訳あって昼間にこら
 れなかったことを重んじなさいと先生
 に言われたことが、社会に出ての糧に
 なっています。

（里吉）若いというのは素晴らしいで
 すよ。そして、若いうちに会社のお金
 で勉強させてもらっているのは、必ず
 役に立つはずですよ。こういった有形の
 財産やつらい思いなどの無形の財産が
 自分のなかで蓄積されてきますので、
 飲むだけが楽しみな諸先輩にならない
 ように頑張ってください。

（川名）嫌なことは必ずあるが、とに
 かく一人で抱え込まないで欲しいで
 す。周りを巻き込んでいくととても楽



になると思います。これから仕事をし
 ていくうえでどうやったら平常心を
 保つていけるかが重要になってくるの
 で抱え込まないでくださいね。
 （司会）みなさんから温かいエールを
 いただきましたが、最後に会長からご
 挨拶をお願いします。
 （会長）追浜高校に入ってから人生追
 浜高校一色といっても過言ではないの
 で、五十周年を最後のご奉公と思い頑
 張りますので、よろしくお願ひします。
 本日はありがとうございました。

平成 19 年 6 月に就任された会長からのご挨拶です

うしお会会長になって

2 期生 進 藤 研 治

この度、平成 24 年（2012 年）に創立 50 周年を迎えるにあたり、黎明期である 1～3 期生から会長を出し、体制を整えたいとのことから、様々な方からご推薦をいただき、うしお会会長を務めさせていただくことになりました 2 期生の進藤です。誠に微力ではございますがお世話になった追浜高校に最後のご奉公のつもりで、頑張る所存でございます。

さて、我が追浜高校も歴史を重ね、内外ともに評価の高い名門校、伝統校になりました。これも一重に歴代の校長先生を始めとした、諸先生、ご父兄の方々の努力の賜物と思えます。

今後とも、卒業生・在校生・PTA 等の皆様と手を携えて、追浜高校の更なる発展のため力を尽くしたいと思っております。どうか宜しくお願いいたします。

うしお会 45 周年が迫ってきました！

平成 22 年（2010 年）にうしお会の 45 周年を迎えます。40 周年時にご好評いただきましたホームカミングデー IN 追高などの企画を現在検討中です。どうぞご期待ください！

（詳細については会報でお伝えします）

幹事会の開催

3・9・12 月に常任幹事会、6 月に幹事会を第 2 土曜日の 3 時より追浜高校で開催しております。

皆様のご参加をお待ちしております。

学校だより

○第 33 回合唱コンクール速報！

- 1 位 3 年 5 組 「言葉にすれば」
- 2 位 3 年 1 組 「走る川」
- 3 位 3 年 3 組 「瑠璃色の地球」

3 年生が 1～3 位を独占しました。
さすがですね！

○後半の主な学校行事

- ・ 10 月 21～24 日 沖縄修学旅行（2 年）
- ・ 12 月 17～19 日 耐寒訓練
- ・ 3 月初旬 卒業式

○耐震に伴う校舎の改修工事が平成 21 年以降に開始される予定です。

（詳しくは学校のホームページを御覧下さい）

活動費援助のお願い

活動費の援助をしていただける方は、下記の口座に「期」と「お名前」をご記入の上、お振込みいただくと幸いです。

口座番号 湘南信用金庫追浜支店 普通預金 0119610 県立追浜高等学校同窓会

（振込み手数料は有料となりますが、湘南信用金庫よりの振込みは、他金融機関より振込み手数料がお安くなります。）

校内幹事 和田、青木



県立追浜高校 同窓会事務局

神奈川県横須賀市夏島町 13 TEL: 046-865-4174 FAX: 046-865-9891